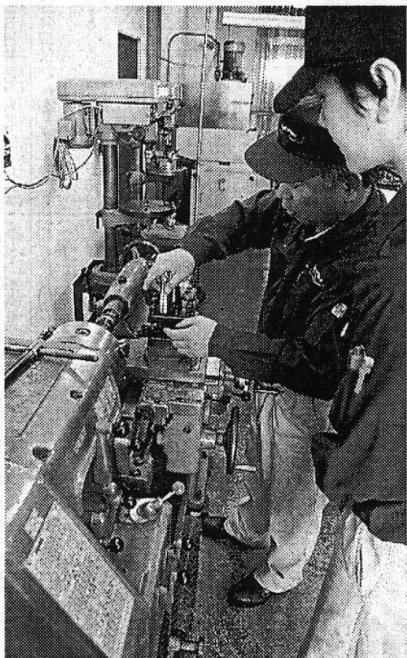


技能伝える拠点続々

団塊世代の熟練技能者が07年から大量に退職し始めるのを前に、若い世代へ「ものづくり」を伝承するための拠点づくりが東海地方で広がっている。過去の採用の偏りで次の世代が手薄な企業があるほか、契約社員などの増加で人員構成も変化し、技術や知識を引き継ぐことが製造業の緊急課題となっているためだ。従来の「技は先輩から盗め」ではなく、体系的に教えようという試みでもある。

(富森ひな子)



タカハシテクニアの「テクニアカレッジ」では、熟練技術者が機械の操作などを指導する=名古屋市で

中堅・中小企業を対象にした「工場長養成塾」の入塾式が13日、名古屋市で開かれた。16人の定員に55人が応募。首頭をとった中部経済産業局が「断るのに苦労した」という人気だ。

指導にあたるのは名古屋工大、豊田自動織機、デンソー技研センター。148時間のカリキュラムの中では、生産や物流管理のノウハウなどを学ぶ。塾生が普段働く工場も実地研修の場となる。

受講者は自動車部品、食品、窯業など様々な業種から集まつた。坂野信一さん(36)は熱処理加工、日高工業愛知県刈谷市の技術部長。同社は約40年前の創業当時の社員が引退期を迎えていた。

自前で技能伝承の場を持つ企業もある。工作

工場長養成塾 ■ 社外に講座開放

機械部品のタカハシテクニア(名古屋市)は、熟練技術者が若手に技術や

技能を指導する「テクニアカレッジ」を3年前、社内で始めた。「企業のコアとなる技術や技能の伝承は容易ではない。ベ

アカレッジ」を3年前、リーダーとなる40代が手薄だ。今村順社長は「専門技術は日々の作業で指導するとしても、管理者の養成をどうするか、頭を悩ませていた。大手のノウハウを学べるのはチヤンス」と期待を寄せる。

日本ガイシは4月、自らは社外に開放。計48時間で、料金は18万円。図面の見方から刀物の選び方、旋盤の使い方まで、基礎知識を一通り学ぶことができる。これまでに延べ100人が学び、今年2月からは、カレッジを卒業したエンジニアの大手でも、指導拠点の新設が相次ぐ。プラザ1工業は昨年12月、工作機

械や工業用ミシンの技術を教える「匠道場」を開講した。工業用ミシンが不振だった時代に採用を抑えたため、同社は40代の技能職が空缺となつている。OB3人が週に3回、20～30代の若手の指導に当たっている。

大量退職控え若手育成

機械部品のタカハシテクニア(名古屋市)は、熟練技術者が若手に技術や技能を指導する「テクニアカレッジ」を3年前、社内で始めた。「企業のコアとなる技術や技能の伝承は容易ではない。ベ

アカレッジ」を3年前、リーダーとなる40代が手薄だ。今村順社長は「専門技術は日々の作業で指導するとしても、管理者の養成をどうするか、頭を悩ませていた。大手のノウハウを学べるのはチヤンス」と期待を寄せる。

日本ガイシは4月、自らは社外に開放。計48時間で、料金は18万円。図面の見方から刀物の選び方、旋盤の使い方まで、基礎知識を一通り学ぶことができる。これまでに延べ100人が学び、今年2月からは、カレッジを卒業したエンジニアの大手でも、指導拠点の新設が相次ぐ。プラザ1工業は昨年12月、工作機械や工業用ミシンの技術を教える「匠道場」を開講した。工業用ミシンが不振だった時代に採用を抑えたため、同社は40代の技能職が空缺となつている。OB3人が週に3回、20～30代の若手の指導に当たっている。